

**施設の災害リスクを確認して
避難確保計画を作成しましょう**

令和4年2月

確認の手順

手順1. ハザードマップの入手

■市ホームページにアクセスしてみよう 2 ページ



手順2. 施設に影響のあるリスクの確認

■何を確認する? 3 ページ
■どこで確認できる? 4 ページ



手順3. 安全な場所の確認

■避難先の位置、避難方法 7 ページ
■施設内で身を守る 8 ページ



手順4. 避難体制の確認

■避難確保のための体制づくり 9 ページ



市ホームページにアクセスしてみよう



■ 宇和島市洪水ハザードマップ

<https://www.city.uwajima.ehime.jp/soshiki/5/sukagawa.html>

台風や大雨などによって**浸水**が想定される箇所やその浸水深、避難所の位置等が地図上に示されています。**須賀川、三間川、立間川、岩松川**それぞれの洪水ハザードマップがあります。**洪水ハザードマップ解説動画**もあります。



■ 宇和島市総合防災マップ

<https://www.city.uwajima.ehime.jp/soshiki/5/bousai-map.html>

地震や津波、**土砂災害**等に対する災害リスクの情報とあわせて、避難場所・避難所等が地図上に示されています。



何を確認する？

Q1.洪水による災害リスクは？ (有・無)

須賀川、三間川、立間川、岩松川それぞれ確認する

浸水深は？ ()川で()m

浸水継続時間は？ ()川で最大()時間/日

Q2.土砂災害による災害リスクは？ (有・無)

ハザードマップから施設と避難先を含む範囲を切り取り、
画像データで保存しておく、リスクの把握と避難経路策定に便利です。



パソコンに
保存



スマホに保存



手書きした
内容をスマ
ホに保存

どこで確認できる？ 洪水①

須賀川、三間川、立間川、岩松川の「洪水浸水想定区域」と「浸水深」は宇和島市の洪水ハザードマップで確認できます
※須賀川は「想定最大規模降雨」を確認してください

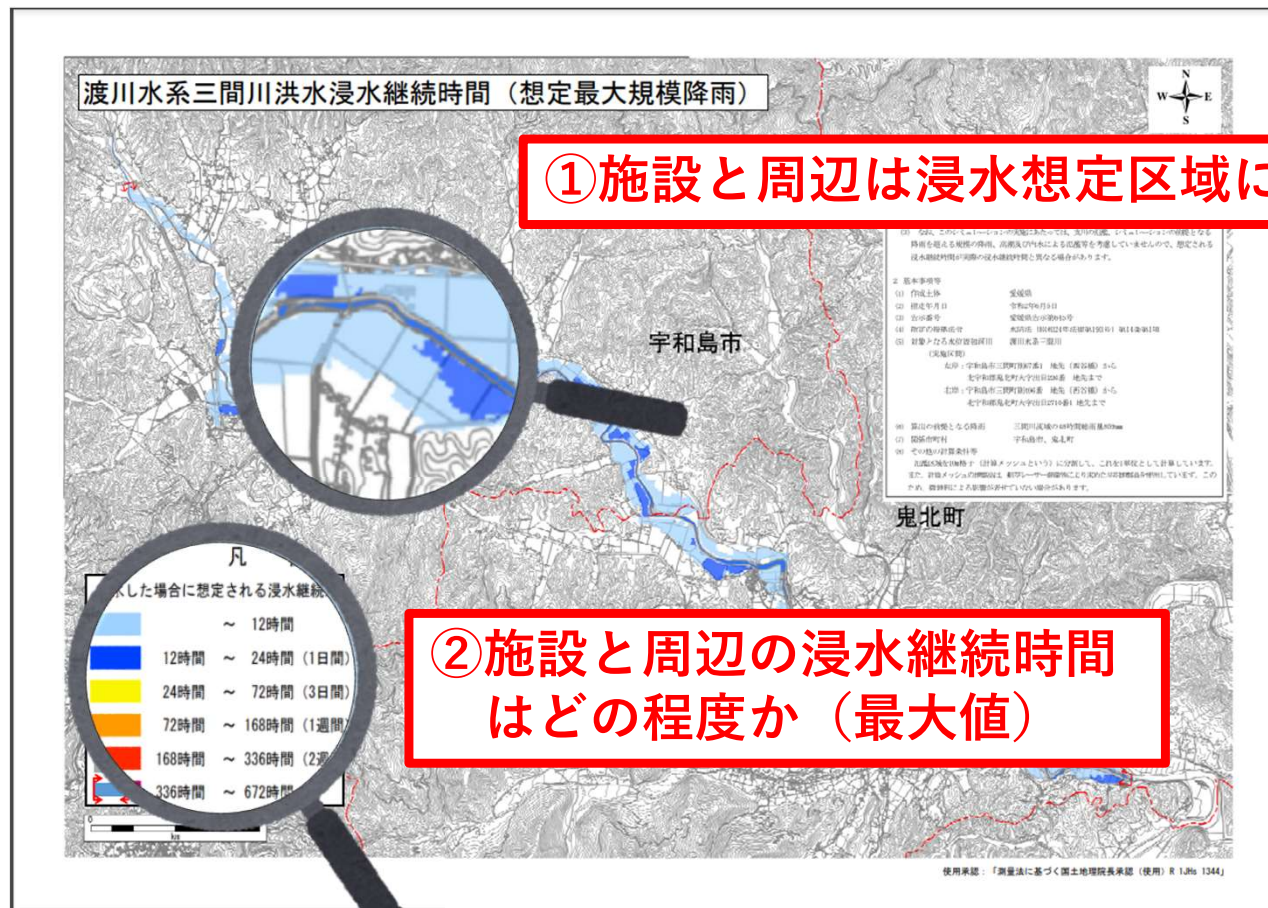


どこで確認できる？ 洪水②

須賀川、三間川、立間川、岩松川の「浸水継続時間」は愛媛県の洪水浸水想定区域図一覧で確認できます

<https://www.pref.ehime.jp/h40600/suibou/kouzui-sinsuisouteikuikizu-itiran.html>

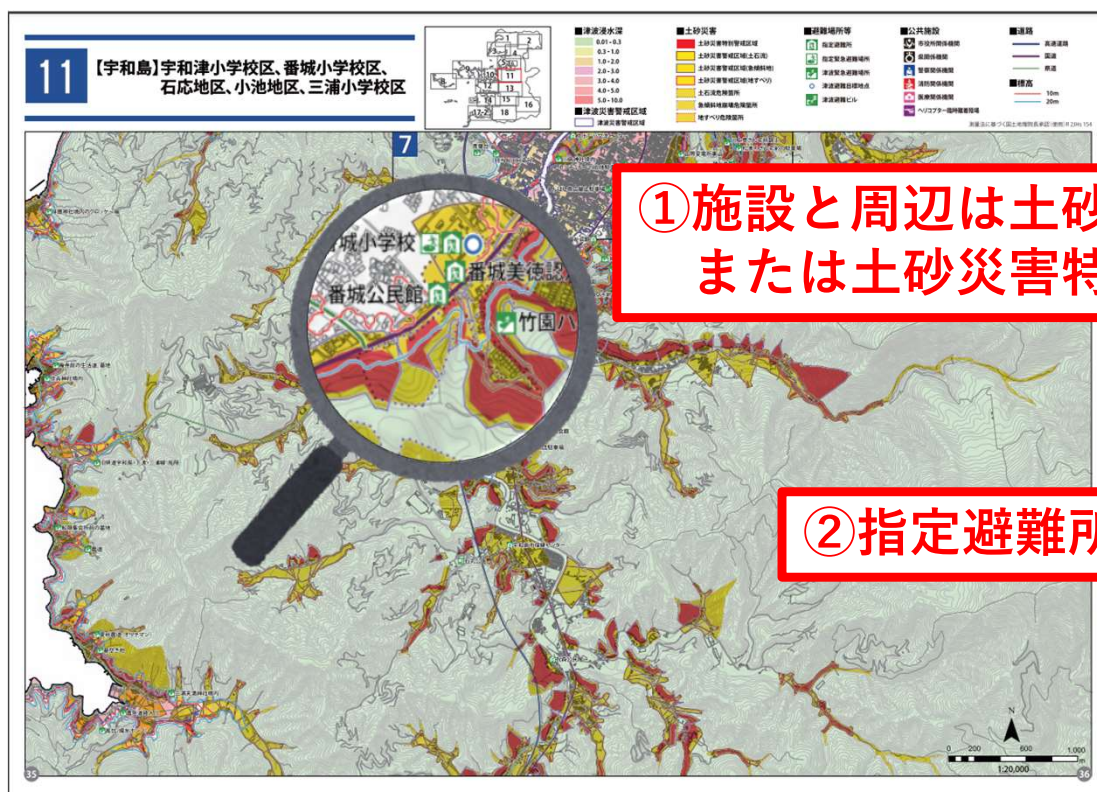
※須賀川は「想定最大規模降雨」を確認してください



どこで確認できる？ 土砂災害

「土砂災害警戒区域」、「土砂災害特別警戒区域」は
宇和島市の総合防災マップで確認できます

※須賀川、三間川、立間川、岩松川の洪水ハザードマップにも
「土砂災害警戒区域」「土砂災害特別警戒区域」が記載されています



①施設と周辺は土砂災害警戒区域、
または土砂災害特別警戒区域に入っているか

②指定避難所はどこか



避難先の位置、避難方法

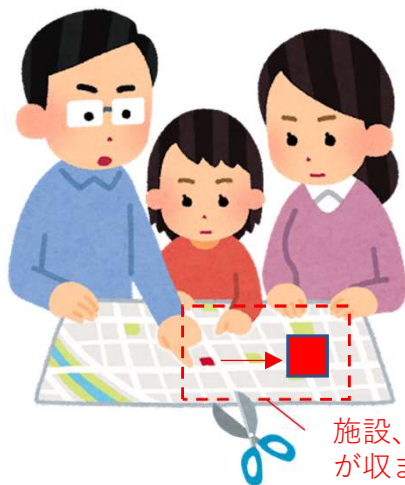
市指定の避難所、近隣の建物、自施設内の、避難に適した場所を確認し、避難経路図を作成しましょう。

- 市指定の避難先の位置を、ハザードマップから確認しましょう。
- 避難に適した近隣の建物がないかを確認しましょう。

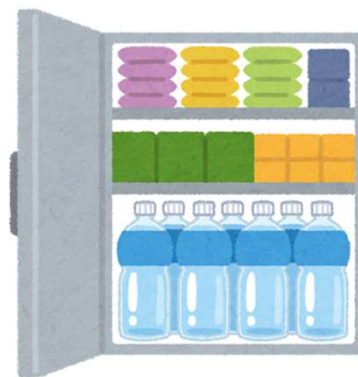


- ハザードマップを下図にして、浸水深の深い場所や土砂災害警戒区域をできる限り避けた、安全な避難経路を計画しましょう。
- 避難先での滞在に必要な（持ち出し可能な）資器材を確認しましょう。

避難先までの避難経路を地図に書き込むとわかりやすい。



施設、避難施設、避難経路が収まる画像データに切り取る。



持ち出し品をリスト化しておく。

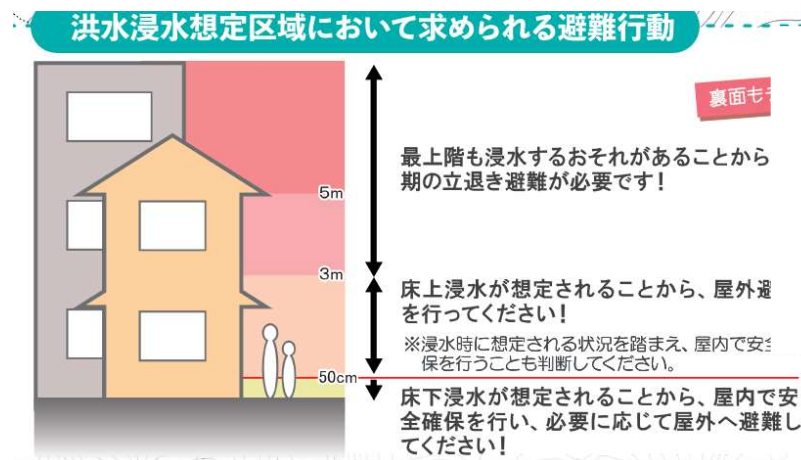


施設内で身を守る

- 道路の冠水や暴風で屋外へ出ることが危険な場合は、施設内で**想定浸水深より高いスペース**や**崖側からできるだけ離れた部屋**などで安全確保しましょう。施設内で安全確保できる場所がありますか。

▶ なし・あり (階の)

ありの場合には、施設の平面図をベースに、避難経路を作図しましょう。



避難確保のための体制づくり

① 避難確保すべき対象や人数

施設の利用者や従業員数を把握して、避難をさせる対象者の規模感を話し合ってみましょう。

Q1. 平日（昼間）の利用者数は？ （ 50 ）人
施設職員数は？ （ 10 ）人

Q2. 夜間・休日含めて利用者＋施設職員の合計が最大なのは？
（平日・休日） の （昼間・夜間） で最大（ 60 ）人

まとめイメージ

表 1.1 適用範囲一覧

	平日		休日	
	昼間	夜間	昼間	夜間
利用者	50名	0名	10名	0名
施設職員	10名	0名	5名	0名
最大収容人数	60名			

避難確保のための体制づくり

②体制区分と班の活動内容

災害リスクの高まりに応じた体制と、活動の内容を話し合ってみましょう。

- 災害リスクの高まりに応じて、
 - 平常時体制
 - 注意体制
 - 警戒体制
 - 非常体制
 と上げていきます。

- それぞれの体制に移行する目安、活動内容、対応要員をきめておきましょう。

まとめイメージ

体制区分	体制の判断時期	活動内容	対応要員
平常時		・避難確保計画、緊急連絡網の更新 ・防災教育・訓練の企画実施 ・他施設との連携、情報共有	施設管理者等(代理者)
		・備蓄品の整備・点検・管理	統括・情報班 避難誘導班
注意体制	・台風に関する気象情報の発表 ・大雨注意報の発表	・防災体制・施設職員の参集判断 ・気象情報の収集・伝達 ・警戒レベル3の発表 ・防災アプリ注意ランク通知	施設管理者等(代理者)統括・情報班
警戒体制	・大雨警報の発表 ・避難準備・高齢者等避難開始の発令	・防災体制・施設職員の参集判断 ・避難先(××中学校)との情報共有	施設管理者等(代理者)
		・気象情報・避難に関する情報の収集・伝達 ・警戒レベル4の発表	施設管理者等(代理者)統括・情報班
		・施設利用者家族への連絡	施設管理者等(代理者)統括・情報班 避難誘導班
		・使用する資器材の準備 ・防災アプリ警戒ランク通知 ・施設利用者移動手段の確保	統括・情報班 避難誘導班 避難誘導班
非常体制	・大雨特別警報 ・避難勧告等の発令 ・××川氾濫危険情報発表	・防災体制・施設職員の参集判断 ・施設の臨時休業の判断 ・避難の判断 ・避難を行う際の区役所等への連絡	施設管理者等(代理者)
		・避難場所の開設状況の確認	統括・情報班
		・施設利用者の避難誘導	避難誘導班
		・警戒レベル5の発表	統括・情報班 避難誘導班

避難確保のための体制づくり

③ 指揮、情報収集、避難誘導の担当

災害リスクの高まった時の、職員の役割を話し合ってみましょう。

利用者等の安全を確保する必要がある「場面」ごとに、役割を確認しましょう。

例えば、常に入所者がいる施設の場合、大きく平日と休日に分け、更に昼間と夜間に分けて考える。

班構成（参考：班の役割）

- 指揮班（施設管理者の支援、各班への指示等）
- 情報収集班（災害に係る情報をテレビ、ラジオ、インターネット等から収集し、各班に報告・伝達）
- 避難誘導班（利用者を安全な場所へ誘導）

担当（氏名・役職）

()

()

()

まとめイメージ

<平日>

班名	昼間	夜間
施設統括管理者	園長 佐藤 (代行者：副園長 田中)	
統括・情報収集班	班長 主任 鈴木	班長 なし なし
	班員 リーダー 高橋	班員 なし なし
	班員 サブリーダー 伊藤	
避難誘導班	班長 フロアリーダー 吉田	班長 なし なし
	班員 なし 山口	班員 なし なし
	班員 なし 井上	

<休日>

班名	昼間	夜間
施設統括管理者	園長 佐藤 (代行者：副園長 田中)	
統括・情報収集班	班長 副主任 小林	班長 なし なし
	班員 サブリーダー 佐々木	班員 なし なし
避難誘導班	班長 事務主任 木村	班長 なし なし
	班員 なし 田口	班員 なし なし